



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

たんけん通信

NPO 法人 Q&A

Q1：NPO 法人には、行政から補助金があるの？

A1： ⇒ いいえ、ありません

「NPO 法人には、行政（国、県、市）などから資金の助成があるものだ」・・・
 と思っておられる方が、おられますが、そのようなことは全くありません。
 中には、行政の仕事を受託している NPO 法人もたくさんあります。そのような
 NPO 法人は、行政の事業の一部を、委託を受けて実施するから、当然「委託金」
 あるいは名目上は「補助金」などを受け取っています。



おもしろ科学たんけん工房の場合：

事業を、行政から受託してやっているわけではありませんから、行政からの資金的な支援は一切受けて
 いません。（ごく一部で、行政機関の注文を受けて、夏休み教室などを出前で実施する場合には、その実施
 料を、頂いているケースはありますが、これらは助成金・補助金ではなく通常の事業収入の一部です。）

Q2：横浜市や藤沢市の「後援」を得ていると チラシにはあるけど？

A2： ⇒ 「後援」は費用助成ではありません

おもしろ科学体験塾や、科学体験活動推進スタッフ養成研修の実施については、横浜市や藤沢
 市の教育委員会の「後援」を頂いていますが、後援というのは「その事業や行事が公共の目的に
 合致しているから応援します」ということであって、実施に必要な費用を助成してくれるわけ
 ではありません。

Q3：おもしろ科学たんけん工房の活動資金はどうなってるの？

A3： ⇒ 私達の活動を支える資金は、次の四つです。

- (1) 受講者の参加費など、事業収入。
- (2) 会員が納める会費、登録料、寄附金。
- (3) 「支援者」からの寄附金
- (4) 各種助成団体（行政を含む）の助成金

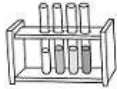
2015事業年度の おもしろ科学たんけん工房の予算
 では右表のようになっています。

会員は、全て無償のボランティアとして、活動に貢献して
 おり、その上更に寄附をしたり、自宅の一部のスペースを
 工房の活動のために無償で提供したりしています。

2015 年度収入予算	万円
① 参加費など 事業収入	490
② 会員からの会費と寄附	210
③ 支援者の寄附金	90
④ 助成金	30
合 計	820

(助成金は東京応化科学技術振興財団)

子どもたちに科学体験活動の場を提供するこの活動に、みなさまの暖かいご支援をお願い申し上げます。
子どもたちが 自転車でゆけるところにあまねく、科学体験塾を！！



横浜西地区 グループ便り

「デンプンの化学」 …色が変わった!

(6/27 戸塚地区センター、) 9/19 永野小

辻村主任は、白衣とつけ髭のふん装で、博士みたいに試験管を持って化学の話をした。さらに、難しい質問には食品に詳しい本物の原田デンプン博士が答えた。



永野小の試験管、ピーカーなどの理科実験器具を使わせていただき、試験管立ては、地区代表の宮下製作所製。

ヨウ素反応はピーカーを使う。シャーレに入った納豆は化学実験の試料だ。食品にスポイトでヨウ素液を滴下し、観察する。ヨウ素で青くなる紙、青くならない紙も調べた。真剣に試験管を見つめる子どもたちは未来の化学者のようだった。子供に化学実験を経験させたいという主任の思いはかなったようだ。



(水山)

「ブザー」 …モールス通信に挑戦

7/18 永野小

募集24名に対して応募52名あり、会場を広い家庭科室に変更、参加者42名と保護者11名の盛況での開催となった。柴田主任(藤沢地区)には、部品の準備も含めて快く対応していただき、順調に進行できた。

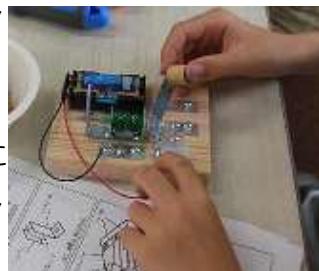
電磁石のコイル巻きは、参加者の個性が最も反映される工程で、ち密に機械巻きのように整然としたものがあれば、団子巻きで磁力発生が心配(?)なものもあったが、共通していたのは、誰も巻き数(ターン数)を数えていなかったこと!! (次回、チャレンジ!)



振動子と電磁石の間げき、接点バネの調整は、生徒には少し難しかったようだが、ブザーがかすかに鳴った時の驚き、ホッとした笑顔を見るのは、いつも楽しい。

「長」・「短」の組み合わせのコード化によるモールス符号は、(通信)技術の発達した現代では、触れる(耳にする)機会はほとんどないが、ブザーの音を音階のように変え、音楽のように鳴らしてみたいとの声があった。子どもの発想は自由だ。

磁力線を3次元で模擬的に見せる道具立ては、その美しさもあり、子供・保護者に好評であった。



(松長)

「ぶるぶるコプター」 …振動! 盛況!

7/25、8/3 フォーラム

本テーマは人気プログラムの一つだが、今回も、45人という記録的な応募数であった。会場の男女共同参画センター横浜(フォーラム)の協力もあり、7月25日(参加者28人)と8月3日(11人)の2回に分けて開催された。参加児童の構成は、両日合計で、男子28人/女子11人。

体験塾では、ふりこの実験、地震揺れの実験、ガリガリとんぼ、声コプターなどの演示や実験で振動を学び、最後に振動で動くぶるぶるコプターの工作を行った。また、完成したぶるぶるコプターに、自分のアイデアでシールや色紙を使って飾りつけを行い、児童の創造力を掻き立て、理科好き児童の将来への動機づけに大きく寄与できたと思われる。

体験塾最後の締めくくりは、振動はきらわれものであること、さらに建物や車には、いろいろな振動対策が取られていることを学んで終了した。



(安藤)

藤沢地区グループ便り No.34

身近のもので科学する 藍の生葉染め

- 7月25日 湘南台高校 -

「藍の生葉染め」は藤沢地区では初めてのテーマで、西グループの水山さんが主任で湘南台高校で開催された。児童17名(男子5名、女子12名)、参観者5名、自由実習2名の参加があったが、テーマの関係からか、女子の参加者が多い結果になった。

事前のリハーサルで生葉染めを体験したが、初めての経験で我々が非常に楽しんだ。体験塾に使用するための藍は、工房の有志が栽培したもので、今回は、石橋さん、津島さん、尾崎さん、川上さんに提供していただいた。有難うございました。

体験塾は、藍の色素について簡単に説明した後、実験1(葉っぱを布にたたいて色素を写しとり、藍とそれ以外の草と色の違いを見る)、実験2(試験布を藍で染めて植物繊維と動物繊維の違いを見る)、作品製作(麻布に藍葉の模様をつけて、藍の生葉でコースターを染める)を行った。



(上手く染まるかな?)

藍の実物を見るのも、布を染めるのも、全員が初めての経験だったようで、本物の藍の葉っぱを金槌でたたいて染める作業は、皆一生懸命でした。ちょっとくたびれた子供もいましたが、コースターが出来上がり、夫々嬉しそうだった。

最後に、水山主任が全員の作品を一つ一つ丁寧に、的確に講評されたのには、スタッフ一同、感服していた。

(記事:笹野、写真:鹿島)

みんないきいき 地域活動見本市(第2回)に出展

- 9月13日 藤沢市民会館 -

「みつけよう! あなたの“活躍”の場を!!」のキャッチフレーズのもと、これから増えるシニアの「地域デビュー」のきっかけづくりを支援する見本市に、「おもしろ科学たんけん工房・藤沢地区」が出展した。主催は藤沢市と認定NPO法人 湘南ふじさわシニアネットで、藤沢市民会館の第1展示集会ホールで開催された。24団体が出展、参加者は328名。



(参加スタッフ)

出展団体は、生涯学習の主催者、ボランティア活動の指導、健康維持増進、障がい者支援、シニア向けスポーツ支援、里山づくり等々、元気なシニアの方たちばかりだった。

「たんけん工房」としては、体験塾の写真を含めたパネル展示の他に、ヘロンの噴水、転がる電線、モーター、風力車の実演・展示をして活動を紹介し、シニアの方に「子供たち向けの科学体験塾をとおして、シニアに最適な生きがいのある社会貢献活動、地域貢献活動である」ことをアピールした。

当ブースには、鈴木藤沢市長をはじめ多くの方が訪れた。われわれの活動に興味を持たれた方は何人もおられたが、すでに他の活動をされている方が多かった。



(鈴木市長もブースを見学)

今回は「たんけん工房」の知名度アップに役立ったと思う。(リーフレット130部を配布)

(記事・写真:鹿島)

(全体編集:笹野)



横浜東地区グループ便り



秋ですわね～、スポーツの? 食欲の?

主任 初挑戦 セミのぬけがらを調べよう

山田 繁

東Gでは二年ぶりの体験塾『セミのぬけがらを調べよう』が8月8日(土)に行われました。

体験塾は、午前中に久良岐公園でセミのぬけがらを採集、昼食のあと、午後は夕見台小学校でぬけがらの種類・雌雄の鑑定、セミの生態の勉強のあと、『セミのぬけがら鑑定士認定証』を受け取って終わりました。

この体験塾は他に比べ準備すべき物品が少なく、また今回は参加児童が7名と少なかったことから 準備に忙殺されることはなく、余裕をもって本番に臨んだはずでした。しかし体験塾後の反省会で、使う言葉が子供向けではない、パワーポイントで作成した説明資料の展開がぎこちなく子供の興味を削いだなど、たくさんの要改善点を指摘されることになりました。それでも、参加者へのアンケートの感想「初めて参加しました。ぬけがらで、セミの種類がわかるなんて おどろきでした。みんなに自慢しようと思います。子供より楽しんでしまいました！」を読んで、主任をやってよかったと思うと同時に、今回の反省点を改善し、より良い体験塾に向け挑戦しようという決意を新たにしました。

このように素敵な感想を頂戴した上に貴重な体験をさせていただいたのは、未熟な主任を支えて下さったみなさんのお陰です。

あらためてお礼を申し上げます。



コラム

コアラとユーカリ

大内 健伍

私は昨年からたんけん工房の体験塾にアシスタントとして参加させてもらっている。

先日藍染の体験塾に参加した。羊毛への綺麗な青への染色と共に、子供たちの個性あるデザインの藍染コースターに驚かされた。

植物は自ら動けないが、色々生き残りの為の仕組みが使われている。藍の葉が傷つくと藍色を作るのも何か理由があるのだろう。今年の夏も庭に植えている大葉は虫に食べられているが、隣の朝顔の葉は無傷である。これは朝顔にはアジサイ、キョウチクトウと同様に毒である青酸を持っており虫の被害から守っているためである。

一方驚くことにコアラが食べているユーカリの葉にも青酸が含まれているらしい。コアラの親は子供が生まれると、お食い初めで自分の糞を食べさせる。このことで親が持っている解毒能力を持つ腸内細菌を子供の腸に移しているとのことである。あのゆっくりとした動きではとてもほかの草食動物と競って食料を確保できない。この細菌のお陰で他の動物が食べられないユーカリの葉を問題なく独占して食べられる。

植物・動物共に生き残りの仕組みが興味深い。



新テーマ 紹介

「ふね! フネ! 船! ゴムの力で走る 色々な船を楽しもう」

三田 重雄

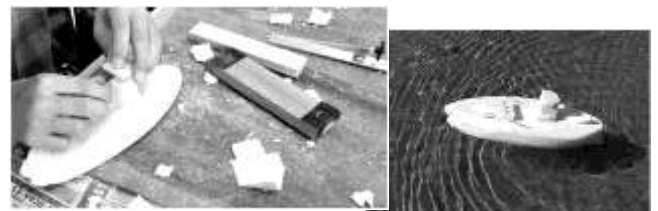
当テーマは、船のしくみを知って、皆さんご存知の「ゴム動力船」を作ることです。

昔はゴム動力の模型飛行機や船を文具店や模型店で簡単に入手できましたが、今では船に至ってはプラモデルさえ扱っていない模型店も多いです。長年船の研究に携わってきましたが、海上輸送を担う船舶は欠くことができないものであり、本当に残念です。

このテーマに取り組んだきっかけは、13-2期養成研修の自由実習で、同席した5年生が「力の種類」に重力、浮力・・・と答え、船に脈ありと感じたからです。

入会后、ゴム動力船に欠くことのできないスクリューの入手に着手しましたが、金属のスクリューはすでに製造中止で、オークションでも高値がついています。これを解決したのがLEGOのスクリューで、金具と軸はすべて手作りとし、長く楽しめるように材料も真鍮やステンレスで、半田づけと曲げ加工も何とかものにしました。船体は断熱材のポリスチレンフォームで、のこぎりとヤスリで色々な形に加工できます。あとはスクリューや舵を1枚のアルミ板に収めたスクリューセットを両面テープで貼りつければ完成です。プールも課題でしたが、これについては実績があり、鋼製アングルを溶接して組立式フレームを作り、ブルーシートを掛けることで解決できました。

体験塾では浮力や安定の実験も含め、子どもたちは毎回大はしゃぎです。





横浜北1地区 グループ便り



今回の北1たんけん通信では、初めてテクテクザウルスの主任をされた福井さんに引継ぎ&体験塾の体験記を、久保田さんには6月に行われたせみの『孵化』観察会の様子を、紹介してもらいます。

テクテクザウルス主任体験 (福井洋一郎)

入会年の年末、地区の定例会で主任を勧められ、人気が高いというザウルス主任に立候補、早速スケジュールに有ったテクテクザウルス体験塾に参加しました。

さあ、大変、ザウルスの足、脚部を見てびっくり。木片切断部が垂直で、足軸穴も垂直、四つの足セット一つずつにそれぞれ位置(左前、左後、右前、右後)が書いてあり、これだけのもの作るという事は、大変な事になったぞと直感しました。

とにかく「材料と購入先一覧」「部品別加工方法一覧」を熊谷さん(北1)に確認しながら作り、「加工所要工数見積もり」をしてみました。



テクテクザウルス

結果、とても私の技術力と持ち時間では作れないと判断し、定例会で泣きを入れたところ、思いもかけない『ザウルス量産化プロジェクト』が立ち上がり、これで万事休す。主任を引受けるしかない状況です。

『量産化プロジェクト』では、リード頂いた島田さんはじめ参加頂いた方々の熱意と工夫で各種ツールが開発され、量産化に関する諸問題がほぼ解決されました。

本番ザウルスキットを準備するに当たって最も時間を使ったのは、足セットの全数の歩行確認でした。勿論予備の足セットも準備しました。



体験塾の様子

参加児童全員のザウルスがしっかり歩行し、皆が喜んでくれたのが最大の成果でした。

ご指導・御協力頂いた方々、本当にありがとうございました。

セミの孵化観察会(久保田尚子) 写真は観察日以外も含む



北1グループでは5年前からセミの羽化観察会を都筑区のせせらぎ公園で行っている。自然観察というのは、子どもたちにとって素晴らしいテーマだ。都会暮らしの私達にとって、ともすると忘れがちな自然がまだすぐ身近なところにあるということに改めて気づき、感動する機会を持つことができる。

今年の6月末、羽化観察会に先立ち孵化観察会を工房内部メンバーで行った。昨年の夏セミが生んだ卵がかえるところを是非この目で見たいと思ったからだ。

セミは杉やヒノキによく卵を生みつける。雨の多い梅雨時は孵化の好機。観察した日は雨が降っていませんでしたので霧吹きを用意した。あらかじめ目ぼしをつけておいた産卵痕(写①)のある木の幹に霧を吹きかけて15分ほど待つと、米粒の1/3くらいの白いセミの幼虫(写②)が穴から出てきた。卵の時に被っていた袋を脱ぎ捨て(写③)、手足が出ると歩き始める(写④)。

孵化した幼虫は地面に落ちて穴にもぐるわけだが、この時命を落とす幼虫はどの位いるのだろうか? 生き物は生まれたその瞬間から天敵の脅威にさらされる。セミとて例外ではない。幹にはたくさんのアリがうろろろしている。やっと孵化してその直後アリの餌食となってしまうものが何と多いことか! 卵が幼虫となり、無事地面にもぐり、5~6年もの長い間地中生活を送り、再び地上に這い出て成虫になると云う事はほとんど奇跡に近い幸運に巡り合わない現実なのだ。生命の尊さを改めて噛みしめた1日だった。



横浜北2地区グループ便り



光と音のサイエンスショーと ミニ工作「がりがりコプター」

7月4日「光と音のサイエンスショー&ミニ工作」が川島公園こどもログハウスで開催されました。雨模様でしたが、ログハウスは、元気に遊ぶ子供たちであふれていました。

その一角で、林さんのサイエンスショーが始まり、火を吹くゴジラ、爆発音をたて発射するロケットに歓声が上がりました。

後半は宮丸さんのがりがりコプターの工作。幼い男の子と参加されたお父さんが、「振動を回転運動に変換しているのですね!」「正解です!」皆、笑顔になりました。(川上奈緒子)



♪電子オルゴールがなったよ♪

出前塾(電子オルゴール)を7月29日に西谷地区センター、8月6日に川島地域ケアセンターで実施しました。受講生は小学1年生から5年生まで。

前半の1時間を講義、後半の1時間で工作。講義では、宮丸さんのダジャレを入れながら、電気を作る(梅干し電池・ゼーバック効果)・通す(導体・絶縁体・スイッチ)についての実験とおもちゃの中に組みこまれていることを確認しました。

工作では、1年生は、カード型を3, 4, 5年生は、箱型を作りました。

今回は、工作の時間が十分に取れなかったため、アシスタントの手伝いが多くなってしまいました。全員が作品を完成させることができ、夏休みの工作をGETできたことと喜んでいました。(大原久仁)



西谷地区センター



川島地域ケアプラザ

聞こえた!聞こえた! スピーカー付き IC ラジオ



9月12日白幡小学校のたいけん塾は「IC ラジオ(スピーカー付き)」。これまではイヤホンだったのですが、今回からはスピーカー付きの本格的なものです。

でもそのかわり32本ものネジに、IC、コンデンサ、抵抗など、向きを間違えずに入れるのはそうとう大変です。ループ型のアンテナにコイルを巻き付けるのも銅線がこんがらがってしまって苦労している人もいました。

そのかわり完成して音が聞こえたときは大喜び。部屋の中は電波が弱いので、廊下や窓側など音がよく聞こえるところを探しまわっていました。(土屋至)

コリオリ先生こんにちは!

ケニヤの小百合さん
今もみんなを楽しませてる?

以前、ここに載ったのと似た話です。私も??年前、植林ボランティア参加の折、車で赤道を横切る(というか、縦切る?)機会がありました。

これは、日本人と判ると“My name is Sayuri”と自己紹介して始まる見せ物の話です。引かれた線を信じましょう。彼女はその赤道の南側1mくらいの場所に立ち、非磁性体の入れ物に水を満たします。固唾を呑んで見守る中、小枝を折って水面に落とすと、静かに右に回りました。それから北側に移動して同じように小枝を落として左に回るの見せました。「拍手、拍手・・・!。」ブロの技でしたね。

さて、日本でトイレ排水は左周り、オーストラリア向けは設計を変える? 竜巻が多いです、右回りもあるとか! (宮丸哲夫)

会員のプロフィールは、7ページと8ページに

ひろむ
小林 伸 さん

東グループ

2014年4月入会



A1: 保土ヶ谷駅前の西久保町で生まれました。小さいながら国道1号線を戦車の隊列がすごい騒音を立てながら走って行ったのを強烈に覚えております。その後、戦火がひどくなり、当時は全くの山の中でした磯子区の栗木(現洋光台)に家族で移住し、その後、洋光台の造成に伴い立ち退きを強制され、現在の港南台に来ました。

兄弟は皆、電気関係でしたがどういうわけか私だけが化学に進み、化学会社に就職しました。会社では当時まだ珍しかった電子顕微鏡によるミクロの仕事から触媒研究、炭素の研究へと変わり、それを応用した顔料、導電材、ゴムの補強、活性炭、記録・記憶材料、リチウム電池、燃料電池の開発研究に従事しました。50歳を過ぎて転職し、ここでは顔料分散の技術指導と分散体の米国市場展開を担当しました。

定年後は10年ほど炭素材料の販売会社を友人と経営しながら、数社に顔料分散体のコンサルタントも行っていました。

平成26年半ばで仕事から完全撤退し、現在に至っています。

A2: 地域で地区社会福祉協議会、民生児童委員や認知症キャラバンメイトに属していますが、行政施策が高齢者ばかりで、次世代を担う子ども達にも何かをと思っていました。たまたま、区社協で工房のパンフレットを見たのがきっかけです。

A3: 子ども達がいろいろな現象に「なんで」「どうして」から解決や原理などを解き明かす楽しさを少しでも知ってもらえるような「場」作りが夢です。

A4: 趣味は、ハイキング、ドライブ、カメラ撮影、郷土の歴史探訪です。

他には人に世話を焼くことです。所謂、自他ともに認めるおせっかいおやじなのです。

認知症の予防講座とサポーター講座は毎月1回以上、地域・小中学校で講座を開いています。また、地域の方々の健康増進のために知ろう会・歩こう会開催、パソコン同好会、先にも述べました民生委員、地区の社会福祉協議会、地域の方々の相談等々、毎日目一杯動き回っています。



- Q1 生まれたところ、今住んでいるところと、ごく簡単な略歴を差し支えない範囲でお書きください。
- Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機を書いてください。
- Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか? 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- Q4 趣味や、他に活動していることはどんなことですか?
- Q5 子どもたちにぜひすすめたいことはなんですか?
- Q6 その他付け加えたいことがあればご自由に一言。



A5: 物事は「出来ない」からはじめないで、実際にやってみてから判断する癖をつけてほしいことです。父兄や学校では危ないことを危ないと教えないで蓋をしてしまう。実行した場合にどのような問題が起きるかを予め考えさせていません。多くの子どもたちにこの科学体験塾を通して知恵を習得して貰えれば幸いです

A6: 特に有りません。

林 和幸 さん

東グループ

2014/4月入会



A1: 生まれは群馬県高崎市、住まいは南区井土ヶ谷です。現役サラリーマン、仕事は半導体設計です。

A2: 横浜ラグビースクールでコーチをしています、子供に何かを説明する機会が多いので、たんけん工房での子供の接し方も参考になりそうだと思って入りました。

戸塚スポーツセンターでチラシを見つけたのがきっかけです。

今年小5の息子がいて、他の科学イベントにもたくさん連れて行っていますが、たんけん工房の扱っている量と質が高く、驚いています。

A3: 20年経って定年を迎えた後に、横浜を飛び出して、南の島の子供達に科学を紹介できる様になるのが夢です。

A4: 横浜ラグビースクール、FanLab 関内、星空撮影。

A5: 試験問題ばかり詰め込むのではなく、試す、考える、また試す、人と話す、また試す、という能力を身につけて欲しい。

A6: 特になし。



自己紹介(プロフィール) 7ページの続きです

三田 重雄 さん東 グループ
2014年1月入会

A1: 海無し県の群馬県・太田市生まれで、小中学校の修学旅行で江ノ島鎌倉に来たことを時々思い出す。そして、大きな機械を作りたいと就職したのが横浜で、新婚時代まで市内の独身寮や社宅を転々としたが、その後は市民の森に囲まれ、野生の小動物も出没する栄区南部の郊外に根を下ろしている。

仕事では、ほんの数年だが大型機械の圧延機やプレスに携わることができ、学生時代時に学んだモノ作りの基礎を手にすることができた。そして海洋開発ブームの到来で船舶海洋部門へと職場を変え、以来前半の20年は研究開発に従事し、後半は都内に転勤したつもりで大学での教育研究の道を行ってきた。

A2: 定年退職直前に起業を目指して学校に通い始め、環境問題や起業家、NPOに関心を持ったが、世の中の進歩にギャップを感じてあきらめた。そして、シニアの就職セミナー等を受講している最中、インターネットを通じてたんけん工房のスタッフ養成講座に出会い、ボランティアだが経験も生かせるので加わった。

A3: 養成研修を含めると2年近くになり、ようやく子どもたちに慣れてきたと同時に、多くのテーマを体験できた。これからは、実験と観察、それとモノ作りを合わせた新テーマも考えていきたい。その一つをゴム動力船で実現でき、自分でも大いに楽しんでいる。

A4: 趣味? 現在のところモノ作り。何とかアーク溶接もできるようになってきた。現役時代は10年間、学生と人力船を作って夏休みに浜名湖のレースに出かけた。FRPの成形も手掛けた。これからは、今は時間が無くてできないが、心地よい音がする一眼レフカメラでの写真撮影や山登りも復活させ、楽しみたい。

江東区で1年ほど車いすの点検・整備ボランティアをやってきたが、昨年からは活動拠点を地元に移したのでやめた。他に、環境体験教室を行っているNPOに加わっている。こども宇宙科学館のサイエンスクラブや青少年センターの子どもサイエンスでは重なることもあるが、たんけん工房の活動を優先している。

A5: 理科に限らず色々なことに手を出してもらいたい。そして、これというものを見つけて夢中になって欲しい。空想を膨らませて欲しい。

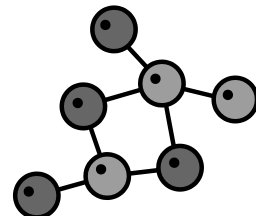
A6: 塊の世代で、まだ若手と思っているが体にガタがきている。時々修理をしながら油を指し(残念ながらアルコールは全くダメ)で、未永く活動を続けたい。

- Q1 生まれたところ、今住んでいるところと、ごく簡単な略歴を差し支えない範囲でお書きください。
 Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機を書いてください。
 Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか? 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
 Q4 趣味や、他に活動していることはどんなことですか?
 Q5 子どもたちにぜひすすめてみたいことはなんですか?
 Q6 その他付け加えたいことがあればご自由に一言。

田中 克尚 さん

西 グループ

2014年 4月入会



A1: 広島県生まれで埼玉県川越市で育ち、今は横浜市保土ヶ谷区に住んでいます。

西日本の大学の理学部数学科を卒業した後、電機メーカーから始まり、数社に勤務しましたが、営業職が長く、他には総務職やECサイト(ネット通販)の運営など文系的職種ばかりでした。今はIT企業(システム開発)の営業担当です。

自然科学全般(今は特に生物系など)に関心がありますが、実験や工作は得意とは言えません。

A2: おとし(2013年)の「青少年のための科学の祭典 神奈川大会」でたんけん工房を知り、面白そうに思ったためスタッフ養成研修に応募しました。

A3: すみません。考え中です。アシスタントなどを続けながら見つけていきます。

A4: 趣味は、旅行と読書、家族でのアウトドア・スポーツなどです。冬にはスキーに行きます。20代半ばに会社のヨット部で活動していた事もあり、海や湖系のレジャー(ボート、カヌーやシュノーケリングなど)も好きです。国内では45都道府県を訪れました(残るは、大きな湖のある〇〇県と四国の〇〇県)。

福岡在住時(20代後半の4年余)には国際交流系(特に対韓国・中国)の活動もしていました。

結構テレビを見るのも好きで、ビジネス系(未来世紀ジパング、カンプリア宮殿、知恵泉)、サイエンス系(サイエンスZEROや生物系等の特集番組)の他、プラタモリ、めざせ!2020年のオリンピックなど録画し週末などにまとめて見たりしています。

ナンプレ(数独)も好きです。

A5: 驚きや好奇心、「なぜだろう?」という疑問を持って不思議な自然現象などに数多く触れて欲しいです。

A6: 40代後半にして、まだまだ発展途上の未熟者ですが、どうぞ宜しくお願い致します。